

原発避難 外国人どうする

玄海30キロ圏防災訓練



佐賀県玄海町から避難したミャンマー人のピョウエーアウンさん一家
11日、同県小城市

参加1家族、啓発に課題

「やさしい日本語活用を」

玄海原発の事故に備えた5日の防災訓練。佐賀県が在留外国人向けのプログラムを設けたのは、増加傾向にある外国人の安全を確保するために、課題をあぶり出すのが狙いだ。大雨や地震とは異なる対応が求められる原発事故。川内原発がある鹿児島県も含め、外国人に対する九州の取り組みは十分とはいえない。

野市では、国際交流の催しが開かれていた。「近くに原発があるのは知っているが、普段話に上らない」。インドネシア人のロニ・ドウィ・プラセティヤさん(24)は話す。玄海原発から13キロの同県唐津市に住み、建設現場で働く技能実習生。来日後、地震や大雨の際の対応は学んだが、原発事故時の対処法は「教えられていない」と言う。

定技能の同国人トウリ・ナルワントさん(44)は、勤務先の食肉加工場で原発のことを教わった。ただ、具体的な避難先や放射線から身を守る方法は「頭に入っていない」と苦笑した。原発事故は肌の露出を避け、屋内退避で窓を閉めるといった対応が求められる。佐賀、福岡、長崎の3県や鹿児島県は住民用の手引を作成。佐賀、鹿児島両県は翻訳版も準備する。福岡、長崎両県は日本語版しかない。

同市の製造業「MSDホールディングス」には常時、中国人やカンボジア人を技能実習生が計20人ほど勤務。同社は毎年、全員を訓練に参加させる。新見和映・代表取締役は「動き方を実践し、防災意識を高めるいい機会。熟知してきた実習生もあり、会社としても安心する」と話す。

東京女子大の広瀬弘忠名誉教授(災害リスク学)は、原発事故や原爆を経験した日本人と違い、外国人は放射性物質への認識と理解度がまちまちだと指摘。「健康被害が起これば、正しい避難方法を明確に伝えておく必要がある。『やさしい日本語』で書かれたマニュアルがあれば、被害を最小限にできるはず」と提言した。(坪井映里香、古瀬哲裕)

九州電力玄海原発(佐賀県玄海町)の重大事故に備えた原子力防災訓練が5日、住民避難の対象となる原発30キロ圏の佐賀、福岡、長崎3県であった。約3万5千人が参加し、避難の手順などを確認した。

年1回のペースで催される訓練で、国と3県などが主催。玄海原発が震度6弱の地震で注水機能が失われ、放射性物質が外部に漏れた事態を想定した。佐賀県は今回、在留外国人向けの避難訓練を初めて実施。ミャンマー人で、夫婦で介護の仕事をするピョウエーアウンさん(29)の一家3人が参加した。即時避難が必要とされる玄海町の原発5キロ圏に住む。家族は自家用車で同県小城市の避難所へ移動。妻エーテウザンさん(31)は「言葉が苦手な外国人もいる。行政の人は案内の際、方言や早口を避ける工夫をしてほしい」と話した。佐賀県では、避難住民の個人情報

をQRコードで管理する取り組みも初実施された。福岡県でも30キロ圏にある糸島市の住民が広域避難。入所者役の行政の担当者のほか、スタッフ4人が参加した介護老人保健施設「ふ

る里」の職員は「車1台移動するだけでも関係機関との電話連絡が20回ほど必要だった。事故の際はどうなることか」と不安を口にした。(松本紗菜子、古瀬哲裕、一ノ宮史成)

四国電力伊方原発が立地する愛媛県伊方町では、外国人が訓練に毎年出て、避難や防護の方法を学んでいる。昨年度は技能実習生29人が参加したという。

事故の際に町民が集まる施設には、日本語が不慣れでも意思疎通できるように、通訳と電話をつなげて会話ができる仕組みが準備され、6カ国語のQ&Aシートも用意する。

同町の製造業「MSDホールディングス」には常時、中国人やカンボジア人を技能実習生が計20人ほど勤務。同社は毎年、全員を訓練に参加させる。新見和映・代表取締役は「動き方を実践し、防災意識を高めるいい機会。熟知してきた実習生もあり、会社としても安心する」と話す。



広域避難先で、衣服の放射性物質付着の有無をチェックされる福岡県糸島市の住民(右)
5日、同県篠栗町



清水丈夫氏

中核派トップ9月退任 半世紀潜伏、高齡理由に

過激派「中核派」の最高指導者だった清水丈夫氏(88)が9月、中核派トップに当たる同派議長を退任したことが5日、関係者への取材で分かった。関係者によると、高齡などが理由として、清水氏は1969年から潜伏。97年に議長に就任した。2020年9月、約半世紀ぶりに同派の集会に姿を見せ、注目を集めた。当面、後任は置かないという。中核派は63年に発足した。反天皇制や成田空港建設阻止などを主張。沖縄返還協定に反対するデモ隊が派出所などを襲撃、新潟県警から派遣された警察官が死亡した71年の「渋谷暴動」など、歴史的な事件に関与している。シャトルバス

5日午前8時半ごろ、岐阜県白川村で観光に訪れたスペイン国籍の男性(40)が子グマに襲われ、右腕に軽傷を負った。村によると、現場は世界遺産に登録されている白川郷合掌造り集落内にあるシャトルバス乗り場近く。

男性は、同国籍の別の男性と2人で歩いていると、草むらから現れた子グマに襲われたという。村が警察や猟友会とグマの捜索に当たっている。シャトルバス

岐阜